

【別紙様式 I】 令和6年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立依知中 学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 安藤 史

学校教育目標		学校経営の方針		
未来の創り手となる「学ぶ意欲」「豊かな心」「健やかな体」を身に付けた生徒育成		「創造・前進・友愛」 生徒が主体的に活動し、協力し合って学校を創るという意識を持ち、高め合える学校を目指す。 ①全職員による協働体制に基づき、チーム一体となった学校づくりを推進する。 ②創造性を持ち、未来を切り拓き、たくましく生きる力を身につける生徒の育成を図る。 ③生徒一人一人が自己の役割を自覚し、他者の多様性を尊重し、誰もが笑顔で楽しめる仲間づくり、環境づくりを心がける。 ④子ども、学校、家庭、地域が互いに相互受発信に努め、連携協力しあい、信頼関係を構築し、四者一体となった学校づくりを推進する。 ⑤定期的な学校評価による組織的・継続的な教育活動の改善を推進し、常に向上し、発展できる学校を目指す。		
		今年度の重点目標		
		①学ぶ意欲を高める学習指導の充実 ②多様性を尊重し、自他ともに大切にできる人権教育の推進 ③相手の話を傾聴し、自分の考えを的確に伝えることのできるコミュニケーション能力の育成		
評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
学校教育目標に向かって活気ある学校づくりができています。	1・2・3	教育活動全般	・行事や活動の精査を行い、生徒たちが主体的に取り組む場面を増やすことができていた。 ・グランドデザインを視覚的にわかりやすく変えた。 ・わからないとの回答が20%を超えているのが引き続きの課題である。	・さらに行事内容や活動内容を見直し、生徒が主役となり活動できる学校づくりを行う。 ・学校だよりの発行回数を増やし、生徒の活動を保護者に理解してもらえるようにする。
情報を発信し、「地域・保護者に開かれた学校」である。	3	・学校だよりの発行 ・ホームページによる発信 ・スクリレによる情報提供	・学校行事などをホームページ、学校だよりを通じて発信することができていた。 ・スクリレの活用により、保護者へお便りなどを確実に届けることができていた。	・「tetoru」への移行をスムーズに行い、今後も活用できない家庭への支援を考える。 ・日本語の理解が難しい家庭には学校からの通知の翻訳の仕方を周知する。
生徒が学習に意欲的に取り組んでいる。	1	・授業改善の研修 ・学習頑張ろう月曜日の取組 ・放課後学習会の取組 ・学習コーナーの設置	・学習頑張ろう月曜日を設定するにあたり、他の活動をなくし、参加しやすい環境にした。 ・放課後学習会や学習コーナーの活用など、生徒が主体的に学習に取り組むことができる環境を整備することができた。 ・今後は、主体的に学びたいと思うような授業を行えるようにさらにブラッシュアップしていく。	・「コミュニケーション能力」の育成、「より良い人間関係づくり」を身に付け、より効果的なグループワークができるように研修を行う。 ・意欲的に学ぶ環境を、生徒の意見も取り入れながら進めていく。
生徒が、単元の計画にある目標を達成するために自分の設定した時間で家庭学習ができている。	1	・単元計画の提示 ・週末課題の取組 ・「STEP UP!!家庭学習」の生活ノートへの掲載や周知	・授業において、単元計画を提示することにより、見通しを持った学習ができるようになっていた。 ・学習時間の提案ではなく、目標を提示することで自己の課題にあった家庭学習ができるようになり、生徒の達成率も昨年度に比べると高くなっていた。 ・家庭学習が結果として現れれば、さらに達成感を感じることができるのではないと思う。	・授業のなかで、達成感を感じることができる小テストなどの取組を検討していく。 ・目標設定を工夫し、スモールステップで学習を進めていくようにする。

生徒が「学校の活動の中でが んばれる場所や役割がある」と 学校に居場所があると感じて いる。	2	・依知中スタンダード「学級経営」 ・心の相談アンケート(紙・オンライン) ・教育相談 ・生活ノート(日記)の活用 ・週1回のコーディネーター会議 ・他機関との連携 ・MVP表彰	・様々な場面で、役割をつくり生徒がその役割を責任をもってやりきること、学校に自分の居場所があると感じていた。 ・心の相談アンケートを通じて、生徒を理解し、早期対応ができていた。 ・教室に入ることのできない生徒の居場所を整備し、その中の活動で、少しでも学校との関わりが感じられるよう取り組んでいた。 ・役割や生徒へのアプローチの仕方について、まだまだ改善の余地はあると感じる。	・依知中スタンダードの「学級経営」を随時見直しながら、生徒たちにとってより良い学級になるよう常に検討を重ねるようになる。 ・サポートルームを充実させ、様々なニーズに最大限対応できるよう努力する。 ・教師は、各行事において、生徒が主体的に活動できるような関わり合いを目指し、お互いに学びあい高めあう教員集団となる。
生徒は思いやりのある言動ができるように意識している。	2	・生徒会本部による「依知桜の木」の取組 ・ゲストティーチャー道徳による人権意識の涵養 ・総合的な学習の時間でのESD推進	・今年度もできているという生徒の評価が非常に高かった。 ・生徒会本部の「依知桜の木」の取組もさらによりものに改善された。今までの活動に加え、お昼の放送で様々な人からの感謝の言葉を発表するなどして、取組をより充実させてた。 ・ESDカレンダーを掲示することにより、日頃からESDを意識することができていた。また、様々な行動がESDにつながっていることを理解することができていた。	・意識が具体的な行動となり、お互いに認め合うことのできる仲間となるよう、「よりよい人間関係づくり」の取組を行う。 ・ゲストティーチャー道徳では、各学年で設定されたテーマにあった講師を検討し、様々な分野のお話を聞くことで、多様な社会に対応できる感覚を養う。
地域の行事や活動に今後参加したいと生徒が思っている。	3	・学校運営協議会との連携 ・地域行事のボランティア参加への意識付け ・地域の人との行事の共催	・できていると答えた生徒が60%を超えている。 ・地域行事へのボランティア参加希望者が多く、その活動ぶりも非常に好評である。 ・「ふれあいタイム」を年1回から2回に増やし、地域の方との触れ合う機会を増やした。活動に参加する生徒は非常に多い。	・生徒に地域の一員であるという意識をさらに持たせ、積極的な地域参画を進めていきたい。 ・災害時の対応についても地域と協議しながら実際に役立つ計画づくりを進めていく。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

学校運営協議会の委員の方から、昨年度よりICTの活用が進んでいるように感じるとの評価をいただいた。また、授業の最初に提示する「目標」についても、職員によって様々な工夫がされており、生徒にわかりやすい手法が見られたとのお話をいただいた。昨年度に引き続き、エアコンのない教室など施設面で気になる点への質問があり、今後の計画について説明した。授業参観で生徒の様子を見ていただき、熱心に学習していることを評価していただいた。また、「ふれあいタイム」は今後も引き続き開催していきたいとのこと意見もいただいた。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

今年度の取組として、授業における単元計画の提示、各行事の取組の精査など一定の効果が見られたと感じている。次年度は、さらに「わかる授業」「主体的に学び合う授業」を目指し授業改善を行う。また、グループワークをより効果的に進めるために「よりよい人間関係づくり」「コミュニケーション能力の育成」を重点的に取り組んでいきたい。